

厚生労働科学研究費補助金

長寿科学総合研究事業

平成16年度 総括・分担研究報告書

高齢者の役割の創造による社会活動の推進及び

QOLの向上に関する総合的研究

(課題番号 H16-長寿-028)

主任研究者 芳賀 博

平成17(2005)年 3月

目次

I. 総括研究報告

- 高齢者の役割の創造による社会活動の推進及びQOLの向上に関する総合的研究…………… 2
芳賀 博

II. 分担研究報告

1. 北海道における高齢者の役割の実態と健康度およびQOLの関連…………… 11
芳賀 博
2. 東北地方の在宅高齢者における役割の実態調査から…………… 26
安村 誠司
3. 関東における高齢者の役割に関する実態調査…………… 38
新野 直明
4. 高齢者のQOLに関連する活動についての検討…………… 43
高田 和子
5. 沖縄地域における高齢者の役割の現状と生活満足度との関連…………… 48
崎原 盛造

I. 総括研究報告

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
総括研究報告書

高齢者の役割の創造による社会活動の推進及びQOLの向上に関する総合的研究

主任研究者 芳賀 博 東北文化学園大学大学院教授

研究要旨

全国から5地域を選び、在宅高齢者が担っている役割及び今後担ってみたい役割の実態を整理すること、さらに役割の遂行と高齢者の健康度、QOLとの関連性を分析、整理することを目的とした。調査地区（高齢者数）は、①北海道（今金町、916名）、②東北（福島県S市、723名）、③関東（群馬県嬭恋、1472名）、④東海（愛知県A町、3,679名）、⑤沖縄（沖縄県全地区、700名）である。調査方法は、自記式による留置き法によった。

職業を有する者は、男性では27.6%（沖縄）～40%（関東）、女性では6.7%（沖縄）～17.6%（関東）の範囲であり、いずれの地区でも男性が女性より多く、仕事の内容は、「農林水産関係」が最も多かった。また、シルバー人材センターでの仕事の経験を有する者は、どの地区でも低く7%未満であった。家の中での役割については、女性は家事全般を担っている割合が高く、男性は、大工仕事のような力仕事を担う傾向にあった。「食事の支度」「洗濯」「掃除」「留守番・電話番」等はある程度介助が必要な者でもその半数以上が担っており（北海道）、沖縄では「神棚・仏壇の管理」や「留守番・電話番」の実施率がむしろ高齢になるほど高かった。地域の団体・組織との関わりについては、「老人会・高齢者団体」「宗教団体・寺の檀家組織」「趣味・レクリエーション関係の会」の割合が高かった。ボランティア活動では、「地域の美化・環境整備」が地区を問わず最も高く、「農作業」「地域や河川清掃」「社会福祉に関する活動」が主なものであった。

今後実施してみたい役割については、収入を伴う仕事では、「農林水産関係」（北海道、沖縄）、家庭内の役割では「庭・花壇・菜園の管理」（北海道）、ボランティアでは、「地域の美化・環境整備活動」及び「高齢者福祉(社会福祉)」（北海道、東北、沖縄）が主なものであった。

北海道においては、役割としての職業労働、学習・趣味活動および地域の団体・組織活動は、健康関連指標全般と有意に関連していた。東海地区においては、職業労働、家事労働、地域活動・学習活動が、精神的活力と有意に関連していた。沖縄でも、地域団体・組織活動と家事労働(女性)が生活満足度と有意に関連しており、役割の遂行と健康度との間には多面的で密接な関連が見られることが確認された。

以上の実態調査の結果を踏まえながら「虚弱高齢者」から「元気な高齢者」までを視野に入れた役割メニューづくりとそれを支援するための環境づくりが次年度の課題である。また、今後の役割創造プログラムの展開を通じて生活機能やQOLに及ぼす影響を縦断調査により明らかにしていく必要があると考えている。

分担研究者

崎原 盛造 沖縄国際大学教授
安村 誠司 福島県立医科大学教授
新野 直明 桜美林大学大学院教授
高田 和子 独立行政法人国立健康・栄養研究所主任研究員

A. 研究目的

65歳以上の人口が2割を突破することを目前にした現在、認知症や寝たきりへの対策に加えて

高齢者の活力やProductivity（生産性）の促進が急務の課題となっている。ゴールドプラン21計画においても介護サービスの基盤整備とともに、

健康・生きがいがづくり、介護予防などのいわゆる元気高齢者対策を車の両輪として推進すべきことが提唱されている。

しかし、平成12年度から開始された同計画も、現状では介護サービスの基盤整備に重点が置かれ、もう一方の元気高齢者対策の推進は、「かけ声」だけに留まっている観が否めない。以前から元気高齢者対策としては、老人クラブに対する活動支援などが行われているが、これらの施策が高齢者の社会活動や社会参加の促進にどの程度の効果を及ぼしているかについては疑問視する声もあり、その評価もほとんどなされていない。

高齢者の社会活動や社会参加の減少は、退職に代表される役割期待の減少に起因するものであることはよく知られている。従って、社会活動促進のためには、地域で高齢者に担ってもらえる、あるいは担ってもらいたい役割の種類（メニュー）を数多く準備することであり、その発掘と創造は必須である。

しかしながら、高齢者の役割創造（役割メニューづくり）とその実践への応用に関する実証的研究はほとんどない。

本研究は、「虚弱高齢者」から「元気な高齢者」まで、その体力レベルに応じた「役割メニュー」の発掘と開発を行い、これらの実践への応用が地域高齢者の社会活動の促進にどの程度影響するかを検証し、同時に生活機能やQOLの向上に果たす役割についても明らかにすることを目的としている。本研究の実施期間は、2年を予定しているが、今年度はその手始めとして全国から地域特性の異なる5地域を選び、在宅高齢者が担っている役割及び今後担ってみたい役割の実態を整理すること、さらに役割の遂行と高齢者の生活機能や健康度、QOLとの関連性を分析、整理することを目的としている。

なお、本研究では役割を社会活動の上位概念として捉え、日常的な家族内の役割や個人的な学習・趣味に関する活動から地域の団体・組織活動やボランティア活動などの社会活動（参加）までを包括する概念として位置づけている。社会活動や社会参加は高齢者の役割が地域的に組織化されたものとして表現することとした。

B. 研究方法

1. 対象地区

本研究の対象となった地区は、1) 北海道：今金町(芳賀担当)、2) 東北地方：福島県S市(安村担当)、3) 関東地方：群馬県嬭恋村(新野担当)、4) 東海地方：愛知県A町(高田担当)、5) 沖縄：沖縄県全地区(崎原担当)である。

2. 調査方法

1) 北海道今金町

北海道瀬棚郡今金町に在住する65歳以上人口1,056名のうち介護保険法の要介護認定者と施設入所者等を除く916名を調査の対象とした。

今金町保健福祉課を通じ、対象高齢者に対し自記式の調査票を郵送により配付した。送付より1週間後から民生委員や保健推進員、保健福祉推進員等により回収を行なった。回収は858部(93.7%)であった。調査票の配布と回収は平成17年1月上旬に実施した。本研究では6つの役割項目：職業労働、家事労働、学習・趣味活動、ボランティア活動、地域の団体・組織活動、リーダーシップを設定し、現在遂行している役割と今後希望する役割に分けて質問した。また、健康関連指標として動作に対する自己効力感¹⁾、活動能力²⁾、QOL³⁾、精神的健康度(GDS)⁴⁾、入院の有無、通院日数などを取り上げた。

2) 福島県S市

対象は、平成17年2月1日現在、福島県S市A地区在住の満65歳以上の高齢者1,446人中、1/2の無作為抽出による723人とした。そのうち、施設入所者、死亡、転出者を除く693人を調査対象者とした。また、本報告では一次分析として、調査対象者のうち、調査期間初期に回答のあった150人を分析対象とした。

調査期間は、平成17年3月10日～18日である。調査は、S市保健福祉部市民健康課、D地区健康づくりの会と共同し、郵送法にて自記式調査票の配布と回収を行った。調査票は無記名とし、自分で記入できない者については、代理者に記入してもらうよう依頼した。

調査項目は、①高齢者の特性として、年齢と性別、家族構成、日常生活自立度、健康状態や健康のために気をつけていること、体力への自信や運動習慣の有無を把握した。②高齢者の役割に関する項目として、収入が伴う仕事（職業）の有無、シルバー人材センター・高齢者事業団の仕事の経験の有無、家の中での役割、地域の団体・組織・会との関わり、現在または最近行ったボランティ

ア活動について選択式で把握した。また、今後、行ってみたい仕事、ボランティア活動に関しては自由記載で回答を求めた。

3) 群馬県嬭恋村

対象は、群馬県吾妻郡嬭恋村西部地区の65歳以上住民1472名である。農業と観光の村として知られており、特にキャベツ生産高は日本一を誇っている。平成16年10月1日時点の老年人口割合は、25.5%である。

2005年1月、嬭恋村保健福祉課の協力を得て、高齢者の健康と役割に関する調査表を用いた調査を実施した。調査表は、郵送により配布し、調査員が各戸を訪問して回収した。調査員には、調査表の記入に関する注意点を事前に十分に伝え、回収時に未記入の有無を確認して、可能ならば再質問により未記入部分を埋めるように指示した。

調査票に回答の得られた人は1194人で、回答率は81.1%であった。しかし、研究班の成立が遅れたことから調査実施時期が遅く、今年度は報告書作成までにデータ集計・分析が可能になったのは300人(男性:130人、平均年齢で73.2±6.1、女性:170人、平均年齢74.8±6.8)であった。

調査票の質問項目は、①基本属性:性、年齢、同居者、学歴、②収入がともなう仕事(シルバー人材センターを除く:有無、種類、今後の希望)、③シルバー人材センターの仕事、④家庭内の仕事・役割:有無、種類、⑤地域の団体活動;有無、役員、⑥ボランティア活動:有無、種類、今後の希望、⑦身体的・精神的健康:活動能力²⁾(老研式活動能力指標、移動能力)、受療状況、転倒歴、抑うつ度⁴⁾、自立度である。

4) 愛知県A町

愛知県名古屋市に隣接するA町に在住する65歳以上の者3,679名を対象に郵送留め置き法により調査を実施した。アンケートは1,915名から回答が得られ、回収率は52.1%であった。そのうち、性・年齢が明確で、対象年齢外からの回答を除く1,755人を解析対象とした。調査内容は、①健康状態(自立度、疾病の罹患状況)、②生活習慣(運動習慣、食習慣、睡眠、喫煙、飲酒など)、③活動への参加状況(収入を得る活動、家事等の収入を得ない活動、地域活動、学習活動など)であった。QOLは、太田ら³⁾が開発した地域高齢者のためのQOLの質問紙を使用した。この質問紙では、QOLの下位尺度として、生活活動力、健康満足

感、人的サポート満足感、経済的ゆとり満足感、精神的健康、精神的活力の6項目を評価している。

5) 沖縄県全地区

調査対象者は、沖縄県老人クラブ連合会の約7万人の会員の中から1%を6地区ごとに抽出した。その内訳は、北部地区150名、中部地区320名、那覇市25名、南部地区130名、宮古地区45名、八重山地区30の合計700名であった。調査は2005年の1~2月にかけて実施した。調査方法は、老人クラブ会員による配票留置調査を実施した。その結果、546名(回収率78.0%)から調査票を回収した。このうち分析対象者は、性別、年齢に欠損値がなく、移動能力(厚生労働省の寝たきり判定基準)のランクJに該当する537名とした。

役割の現状については、①職業の有無とその内容、今後希望する仕事の内容、②シルバー人材センターや高齢者事業団の仕事の有無、③家庭内での役割の有無、④地域の団体等への参加の有無、今後希望するボランティア活動の内容を取り上げた。生活満足度の指標としてLSIK⁵⁾を用いた。

C. 研究結果

1. 北海道における実態調査から

実施している役割の内容を性、年齢、移動能力別に検討した。職業労働の内容をみると、男性の3割程度が職業を持っており、女性はその半分程度であった。移動能力別では障害がない者の職業労働従事率が高いが、何らかの介助が必要な高齢者でも職業を持つ者もいた。家事労働に関しては、「食事の支度」、「洗濯」、「掃除」、「神棚・仏壇管理」、「庭・花壇・菜園管理」、「ごみ捨てごみ処理」を実施しているものは半数以上に見られた。とくに、女性では、約9割が「食事の支度」「洗濯」「掃除」を実施していた。移動能力別にみた内容では、何らかの介助が必要な高齢者でも「食事の支度」、「洗濯」、「掃除」、「留守番・電話番」は半数以上が実施できている家事労働であった。学習・趣味活動では、男性が「パークゴルフ」、女性が「押し花・ちぎり絵・パッチワーク・手芸」が多かった。ボランティア活動では、男性が「農作業」、女性は「地域の美化・環境整備活動」が多かった。また「地域の美化・環境整備活動」は年齢が比較的高齢でも、移動能力が低くても実施可能な活動であった。

役割実施数の平均値で検討したところ、男性が

有意に高い役割は、職業労働やボランティア活動、地域の団体・組織活動であり、女性が有意に高い役割は家事労働であった。

高齢者の希望する役割については、職業労働では、「農業・農作業・畜産関係」の希望が若干多く、家事労働では「食事の支度」や「掃除」などの家事を中心に「庭・花壇・菜園の管理」などを希望するものが多かった。学習・趣味活動では圧倒的に「パークゴルフ」や「その他のスポーツ」の希望が多いが、これは男性、75歳未満、障害のないものを中心としている。ボランティア活動では「地域の美化・環境整備活動」や「介護等、高齢者福祉」の希望が多かった。

各健康関連指標の得点が役割によって規定される程度を明らかにするために重回帰分析を行った。役割としての職業労働、学習・趣味活動および地域の団体・組織活動は、動作に対する自己効力感、活動能力、QOL、精神的健康度と有意に関連していた。また、家事労働は、自己効力感、活動能力とのみ有意に関連していた。

2. 東北地方における実態調査から

収入の伴う職業については、「持っている」者が男性30.6%、女性が12.1%で男性の割合が高かった。職種は、男女とも農林水産関係の自営業に従事している割合が高かった。

シルバー人材センター・高齢者事業団体の仕事の経験については、男女とも約9割が「やったことがない」と答えていた。家の中での役割については、「食事の支度」、「洗濯」、「掃除」、「留守番・電話番」、「漬物・乾物・味噌作り等」で女性が行っている割合が男性よりも高く、「大工仕事や家の修繕」については男性の方が行っている割合が有意に高かった。

地域の団体・組織・会との関わりは、男性で町内会・自治会に「入っている」・「役員」の割合が女性より高く、回答した約半数の者が町内会・自治会との関わりがあった。現在行っている（最近行った）ボランティア活動では、全体的にみると男女とも「美化・環境整備の活動」、「農作業に関する活動」、「清掃に関する活動」への参加が約2～3割であり、他の項目よりも参加割合が高かった。

今後実施してみたいボランティア活動に関しては、回答者は男性7人、女性8人で「美化・環境整備の活動」への希望が男性4人、女性2人と、

他の項目に比べると希望者が多かった。

3. 関東地方における実態調査から

①収入がともなう仕事、②今後やりたい仕事、③シルバー人材センターの仕事経験、④家庭内の仕事・役割、⑤地域の団体・組織・会への加入、⑥その団体における役員、⑦ボランティア活動の経験、⑧今後やりたいボランティア活動の8項目の有無を、性別、年齢別（65-74歳：前期高齢者 vs 75歳以上：後期高齢者）に調べた。

仕事については、男性で、また、前期高齢者で、「あり」が有意に多く、最多の男性前期高齢者では50%が、最少の女性後期高齢者では6%が仕事を有していた。今後やりたい仕事のある人、シルバー人材センター仕事経験ある人の割合は、性年齢とは関係なく低い値であった。家庭内の仕事・役割のある人の割合は、いずれの性、年齢でも80%以上だったが、男性前期は低く、女性前期は高い結果だった。地域での団体活動に加入している人も、いずれの性、年齢でも80%以上と多かった。役員をしている人は少なかったが、その割合は男性に多く、特に男性後期に多かった。ボランティア活動経験者の割合は、男性前期が最低（51.8%）、男性後期が最高（70.8%）だった。今後やりたいボランティアのある人はいずれの性、年齢でも10%以下だった。

役割の有無を移動能力別に調べた。移動能力は、高低2群に分けた（高：身体的障害なく自由に外出可、低：身体的障害あり一人で遠出困難、あるいはそれ以下）。その結果、移動能力の低群に仕事や家庭内の役割の遂行は有意に少なかったが、一方で、今後やりたい仕事「あり」、地域の団体加入、ボランティア活動経験や今後やりたいボランティア「あり」では、移動能力による有意な差は見られなかった。

4. 東海地方における実態調査から

活動内容は、身体活動量を反映する活動（歩数、運動の実施）、異なる種類の作業（体を動かす作業、収入を得る作業、収入を得ない作業）、他者とのかわりを持つ活動（地域活動、他人の世話）、知的作業（学習活動、新聞を読む、本・雑誌を読む）、役割をもつ活動（相談にのる、若い人に話しかける）の13種類とした。QOLのそれぞれの下位尺度をみると、生活活動力得点は、体を動かす作業、収入を得ない作業（家事・家庭菜園等）、本・雑誌を読む、友人の訪問、相談にのるを実施している

場合、男女とも高くなった。健康満足感得点は運動、他人の世話、新聞を読む、本・雑誌を読む、友人の訪問、相談にのる、若い人への話しかけの実施で男女とも高く、歩数が多い、収入を得る仕事の実施では男性のみで、体を動かす作業では女性のみで高かった。人的サポート満足感得点は、他人の世話、新聞を読む、本・雑誌を読む、友人の訪問、相談にのる、若い人への話しかけで男女とも高く、運動と体を動かす作業、学習活動では女性のみ、収入を得る仕事、収入を得ない仕事（家事・家庭菜園等）では男性のみで実施している場合に高かった。経済的ゆとり満足感得点は、本・雑誌を読む、相談にのる、若い人への話しかけで男女とも高く、学習活動、新聞を読むは女性のみ、友人の訪問では男性のみで実施している者で高かった。精神的健康得点は、本・雑誌を読む、友人の訪問、相談にのる、若い人への話しかけの実施で男女とも高く、歩数が多い、運動の実施では男性のみ、体を動かす作業、地域活動、他人の世話、学習活動の実施では女性のみで高かった。趣味や生きがい

5. 沖縄における実態調査から

仕事に従事している者の割合は、全体の17.7%であった。また、女性(6.7%)よりも男性(27.6%)において仕事に従事している者の割合が高いことが示された。仕事の内容については、男女とも農林漁業関係がそれぞれ47.1%、40.0%と最も多かった。今後従事してみたい仕事内容についても、農林漁業関係が最も多かった。シルバー人材センター・高齢者事業団の仕事の経験がある者の割合は、全体の約7%であった。

家庭内での役割については、食事の支度、洗濯、掃除、家計・財産管理、神棚・仏壇の管理、ごみ捨て、留守番・電話番、漬物・乾物・味噌づくり等の項目において、有意に女性が役割を遂行しており、男性では、大工仕事・家の修繕を役割として担っていることが確認された。年齢階級別の分析では、神棚・仏壇の管理と留守番・電話番については、加齢とともに役割として担う傾向にあることが示唆された。

男性では女性に比べて、体育・スポーツ関係指導団体、退職者団体、政治関連団体・後援会活動

等において有意に参加状況が多いことがわかる。女性では、婦人会・女性団体、趣味・レクリエーション関係のサークル、ボランティア関連団体等への参加が男性に比べて多いことがわかる。

ボランティア活動への参加では、地域の美化・環境保護に関する活動、社会福祉に関する活動に従事するものは男女とも5割以上にみられた。また、ボランティア活動への参加希望においても、地域の美化・環境保護に関する活動、社会福祉に関する活動が最も多かった。

役割の状況と生活満足度との単相関分析を行った。その結果、男性では、地域団体・組織への参加が生活満足度と有意に関連していることが示された。また、女性では婦人会・女性団体、民生委員や福祉関係の団体・組織等への参加に加えて、庭などの手入れ、漬物・乾物・味噌づくり等の家事的役割が生活満足度と関連していることが示された。

D. 考察

1. 研究の背景

高齢者の社会参加や社会活動が、生命予後に好影響をもたらすことは国内外を通じて古くから知られている^{6, 7)}。また、社会活動が日常生活動作や手段的日常生活動作の維持に有効であること⁸⁾や生活満足度と密接に関連していること⁹⁾などが報告されている。さらには、社会活動の程度を測定するための指標の開発なども行なわれている¹⁰⁾。しかし、これらの研究は、全て観察型の研究であり社会参加を促進するための介入型の研究はこれまでには見当たらない。そのため、高齢者の社会参加促進による生活機能及びQOLの維持・向上に有効なプログラムが見出せないのが現状である。本研究は、このような現状に鑑み、社会参加促進のための手段としての役割期待に着目して高齢者が担える役割メニューづくりを行い、さらには実践に応用するためのプログラムを開発することに最大の特色がある。

今年度はその手始めとして全国から地域特性の異なる5地域を選び、在宅高齢者が担っている役割及び今後担ってみたい役割の実態を整理するとともに、役割の遂行と高齢者の活動能力やQOLとの関連性を分析・確認することを目的として行った。

2. 高齢者の役割の実態

収入をともなう仕事に従事する者は、男性では27.6%（沖縄）～40%（関東）、女性では6.7%（沖縄）～17.6%（関東）の範囲であり、いずれの地区でも男性が女性より多かった。総務庁の「高齢者の生活と意識」に関する調査結果では、65歳以上の男性では約4割、女性では約2割が収入を伴う仕事をしている¹¹⁾。本研究班の対象地域の就業率は全国と同じかやや低い値を示しているといえよう。実施している仕事の内容では、どの地区でも「農林水産関係」が最も多く、高齢者が担える職業の特性ともいえる。

シルバー人材センター・高齢者事業団での仕事の経験を有する者は、東北、関東では3%未満であり、最も多かった沖縄でも7%程であった。シルバー人材センター・高齢者事業団の活動は、高齢者の就労を促進する機関としての役割が期待されることもあり、普及活動や仕事の内容を高齢者の立場に立って見直すなどの検討も必要であろう。

家の中での役割については、女性は家事全般に関する役割を担っている割合が高く、とくに「食事の支度」「洗濯」「掃除」では、沖縄では9割以上、北海道では約9割、東北では7～8割と高率であった。一方、男性は、大工仕事のような力仕事を担う割合が多く、これらの傾向は男女の性役割を表しているともいえる。なお、「食事の支度」「洗濯」「掃除」「留守番・電話番」等はある程度介助が必要な高齢者でもその半数以上が担っていたこと（北海道地区）、沖縄の高齢者では「神棚・仏壇の管理」や「留守番・電話番」の実施率が高齢になるほど高かったことなどから考えて、家庭内には虚弱な高齢者にも担える何らかの役割があることを示唆している。

地域の団体・組織との関わりについては、加入義務傾向の強い「町内会・自治会」を除けば、「老人会・高齢者団体」「宗教団体・寺の檀家組織」「趣味・レクリエーション関係の会」の割合が高かった（北海道、東北）。沖縄の高齢者は、「趣味・レクリエーション関係の会」「地域の文化や祭りに関する組織」「ボランティア関連団体」などへの参加が主なものであったが、これは沖縄の対象が老人クラブ会員という特性を有しているためかもしれない。

ボランティア活動では、北海道、東北、沖縄の3地区とも「地域の美化・環境整備活動」の実施割合が最も高く、北海道、東北では「農作業」「地

域や河川清掃」と続く。このように、「環境整備」や「清掃」に関わる活動は男女とも実施割合が高く、林¹²⁾の報告でも高齢者に期待できる活動として挙げられており、高齢者にとっては比較的気軽に取り組みやすい活動であると思われる。

3. 役割と健康関連指標との関連

北海道地区においては、役割としての職業労働、学習・趣味活動および地域の団体・組織活動は、健康関連指標（動作に対する自己効力感、活動能力、QOL、精神的健康度）全般と有意に関連していた。また、家事労働は、自己効力感、活動能力との関連が有意であった。東海地区においては、職業労働、家事労働、地域活動・学習活動が、共通してQOL指標としての精神的活力と有意に関連していた。沖縄では、いくつかの地域団体・組織活動（男女）と家事労働（女性）が生活満足度と有意に関連していることが示された。このように役割と健康関連指標との間には、これまでの研究（6～9）と同じように、役割の遂行と健康度との間には多面的で密接な関連が見られることが確認された。

役割とこれら結果より、高齢者の健康づくりのためには、単に趣味やスポーツ等の機会やボランティア活動を設定するだけでなく、高齢者の特性に見合った職業労働や家庭内の家事役割を創造していくことが重要である。

本研究班においては、次年度にこのような介入プログラムの展開を通じて生活機能やQOLに及ぼす影響を縦断調査により明らかにする予定である。

4. 今後担ってみたい役割

今後実施してみたい役割については、収入を伴う仕事では、「農林水産関係」（北海道、沖縄）、家庭内の役割では「庭・花壇・菜園の管理」（北海道）、ボランティア活動では、「地域の美化・環境整備活動」及び「高齢者福祉（社会福祉）」（北海道、東北、沖縄）が主なものであった。今回の実態調査において、何らかの介助が必要な者でも実施可能であった役割、85歳を過ぎても半数以上が実施可能であった役割が明らかにされたが、これらに加えて、今後担ってみたい役割等を踏まえながら「虚弱高齢者」から「元気な高齢者」までを視野に入れた役割メニューづくりとそれを支援するための地域の人々の理解と環境づくりが高齢者の役割の拡大につながると考える。

E. 結論

収入をとまなう仕事に従事する者は、男性では27.6% (沖縄) ~40% (関東)、女性では6.7% (沖縄) ~17.6% (関東) の範囲であり、いずれの地区でも男性が女性より多かった。

また、仕事の内容では、どの地区でも「農林水産関係」が最も多く、高齢者が担える職業の特性ともいえる。シルバー人材センター・高齢者事業団での仕事の経験を有する者は、どの地区でも低く7%未満であった。

家の中での役割については、女性は家事全般に関する役割を担っている割合が高く、とくに「食事の支度」「洗濯」「掃除」では、高率であった。一方、男性は、大工仕事のような力仕事を担う割合が多かった。「食事の支度」「洗濯」「掃除」「留守番・電話番」等はある程度介助が必要な高齢者でもその半数以上が担っていたこと(北海道)、沖縄の高齢者では「神棚・仏壇の管理」や「留守番・電話番」の実施率が高齢になるほど高かったことなどから考えて家庭内には高齢でも、虚弱でも担える何らかの役割があることが示唆された。

地域の団体・組織との関わりについては、「老人会・高齢者団体」「宗教団体・寺の檀家組織」「趣味・レクリエーション関係の会」の割合が高かった。

ボランティア活動では、「地域の美化・環境整備活動」の実施割合が地区を問わず最も高く、「農作業」「地域や河川清掃」「社会福祉に関する活動」等が主なものであった。また「地域の美化・環境整備活動」は年齢が比較的高齢でも、移動能力が低くても実施可能な活動であった(北海道)。

今後実施してみたい役割については、収入を伴う仕事では、「農林水産関係」(北海道、沖縄)、家庭内の役割では「庭・花壇・菜園の管理」(北海道)、ボランティア活動では、「地域の美化・環境整備活動」及び「高齢者福祉(社会福祉)」(北海道、東北、沖縄)が主なものであった。

北海道においては、役割としての職業労働、学習・趣味活動および地域の団体・組織活動は、健康関連指標全般と有意に関連していた。東海地区においては、職業労働、家事労働、地域活動・学習活動が、QOL指標としての精神的活力と有意に関連していた。沖縄でも、地域団体・組織活動と家事労働(女性)が生活満足度と有意に関連しており、役割の遂行と健康度との間には多面的で密

接な関連が見られることが確認された。

以上の実態調査を通じて、高齢者の多くが担っている役割、介助が必要な者でも、また、高齢になっても担える役割が明らかにされたが、これらに加えて、今後担ってみたい役割の希望を踏まえながら「虚弱高齢者」から「元気な高齢者」までを視野に入れた役割メニューづくりとそれを支援するための環境づくりが次年度の課題である。また、今後の役割創造プログラムの展開を通じて生活機能やQOLに及ぼす影響を縦断調査により明らかにしていく必要があると考えている。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

引用文献

- 1) 芳賀博: 転倒に対する意識・態度の尺度化の試み、地域高齢者における転倒骨折に関する総合的研究(平成7年度~平成8年度科学研究費補助金「基礎研究A(1)」研究成果報告書、124-136、1997
- 2) 古谷野亘・他: 地域老人における活動能力の測定—老研式活動能力指標の開発、日本公衆衛生雑誌、34(3)、109-114、1987
- 3) 大田壽城、芳賀博、長田久雄、田中喜代次、前田清・他、地域高齢者のためのQOL質問表の開発と評価、日本公衆衛生雑誌、48(4)、258-267、2001
- 4) Niino, N., Imaizumi, T. & Kawakami, N. A Japanese translation of the Geriatric Depression Scale. *Clinical Gerontologist*, 10(3), 85-87, 1991
- 5) 古谷野亘、柴田博. 生活満足度尺度の構造: 因子構造の不変性. *老年社会科学* 12, 102-116, 1990
- 6) 東京京都老人総合研究所: 小金井市70歳老人の総合健康調査 - 第2報・10年間の追跡調査 - , pp1 - 185, 1988,
- 7) Berkman LF, Breslow L (森本兼曩 監訳):

- 生活習慣と健康、HBJ出版局、pp99 - 137、1989、
- 8) Ishizaki T, Watanabe S, Suzuki T, Shibata H, Haga H : Predictors for functional decline among non-disabled older Japanese living in a community during a 3-year follow-up. J Am Geriatr Soc, 48,1424-1429, 2000
- 9) 香川幸次郎、中嶋和夫、芳賀 博：高齢者の社会活動と生活満足度の関係、日本保健福祉学会誌、5（1）、71 - 77、1998
- 10) 橋本修二・他：高齢者における社会活動状況の指標の開発、日本公衆衛生雑誌、44（10）、760 - 768、1997
- 11) 務庁長官官房高齢者会对策室：高齢者の生活と意識 第4回国際比較調査結果報告書. 中央法規出版、東京、1997.
- 12) 林 幸克：社会教育行政の講座を受講している高齢者の学習意識の検討. 高齢者のケアと行動科学；2003, 9(1)：66-74.

II. 分担研究報告

北海道における高齢者の役割の実態と健康度およびQOLの関連

分担研究者 芳賀 博 東北文化学園大学大学院教授

研究要旨

本研究は北海道における在宅高齢者を対象に、1) 高齢者の役割遂行の実態を明らかにすること、2) 役割と健康関連指標との関係を明らかにすること、3) 高齢者の希望する役割の内容を明らかにすることを目的とした。実施している役割で最も多かったのは、家事労働であり、「食事の支度」「洗濯」「掃除」「神棚や仏壇の管理」「庭・花壇・菜園の管理」「ごみ捨てやごみ処理」は半数以上が実施していた。職業労働への従事者は22%、ボランティア活動の中では、「公園整備・花壇の手入れ」が23%と最も多く、団体組織活動では「宗教関連団体・檀家」や「老人会・高齢者団体」が多く4割前後あった。家事労働としての「食事の支度」「洗濯」「掃除」「留守番・電話番」及びボランティア活動としての「地域の美化・環境整備」は、高齢でも、移動能力が低くても比較的实施可能な役割であった。

役割としての職業労働、学習・趣味活動および地域の団体・組織活動は、本研究で取り上げた健康関連指標（動作に対する自己効力感、活動能力、QOL、精神的健康度）と有意に関連していた。また、家事労働は、自己効力感、活動能力とのみ有意に関連していた。

一方、高齢者が希望する役割として、職業労働では「農作業」、家事労働では「食事のしたく」、学習・趣味活動では「パークゴルフ」、ボランティア活動では「地域の美化・環境整備」「介護等、高齢者福祉」が主なものであった。次年度、これらの役割を加味した地域高齢者のための役割づくりの設定を行う予定である。

A. 研究目的

65歳以上の人口が2割を突破することを目前とした現在、認知症高齢者や寝たきり等への対策に加えて、高齢者の活力やproductivity（生産性）の促進が急務の課題となっている。高齢者の社会参加や社会活動が、生命予後に好影響をもたらすことや、生活機能の維持および主観的QOLの向上と密接に関連することは良く知られているが、高齢者を対象とした社会活動や社会参加の積極的な創造はまだできていないと考えられる。

高齢者の社会活動や社会参加の減少は、退職に代表される役割（期待）の減少に起因するものであり、社会活動促進のためには、地域で高齢者に担ってもらえる、あるいは担ってもらいたい役割の種類を数多く準備することが必要である。しかし高齢者の役割づくり

とその効果に関する実証的研究はほとんどない。

本研究は地域高齢者の望む役割の内容を明らかにし、高齢者を取り巻く家族や地域の関係者及び関係団体のエンパワーメントを通じてそれらを地域へ応用実践することにより、高齢者の社会活動の促進にどの程度影響するのかを検証し、同時に生活機能や健康度、QOLの向上に果たす役割についても明らかにすることを目的としている。研究の1年目である今年度は、1) 高齢者の役割遂行の実態を明らかにすること、2) 役割と健康度、QOLとの関係を明らかにすること、3) 高齢者の希望する役割の内容を明らかにすることを主たる目的とした。

なお、本研究では役割を社会活動の上位概念として捉え、日常的な家族内の役割や個人

的な学習・趣味に関する活動および社会活動や社会参加を包括する概念として位置づけている。社会活動や社会参加は高齢者の役割が地域的に組織化されたものとして表現することとした。

B.研究方法

1. 調査対象

北海道瀬棚郡今金町に在住する 65 歳以上人口 1,056 名のうち介護保険法の要介護認定者と施設入所者等を除く 916 名。

2. 調査方法

今金町保健福祉課を通じ、対象高齢者に対し自記式の調査票を郵送により配付した。送付より 1 週間後から民生委員や保健推進員、保健福祉推進員等を回収員として回収を行なった。回収員に対しては事前に説明会を実施し、調査の内容や意義を説明した。また未記入者に対する聞き取りの方法や調査表の確認作業等の依頼も行なった。調査票の配布と回収は平成 17 年 1 月上旬に実施した。

本研究では高齢者が日常的に占める地位から 6 つの役割項目（職業労働、家事労働、学習・趣味活動、ボランティア活動、地域の団体・組織活動、リーダーシップ）を設定した。役割の具体的な定義内容は表 1 のとおりである。分析の際にはこれら役割項目をそれぞれ得点化した。

また、生活活動、健康度、QOL など健康関連の指標に^{2) 3) 4) 5)} 関しては表 2 に示すものを用いた。健康関連指標の得点の算出方法として、2 選択肢の設問では、それぞれ望ましい回答をしたものを 1 点、望ましくない回答を 0 点、また 4 選択肢の設問では望ましい回答から順に 3~0 点とし、合計点をそれぞれの指標の得点とした。また入院については過去 1 年間の入院経験の有無について「あり」を 1 点、「なし」を 0 点とし、通院については過去 1 カ月間の通院数を指標とした。

役割項目と健康関連指標の関連性の検討は相

関分析（偏相関）および重回帰分析を実施した。使用した統計解析ソフトは「秀吉」（株式会社情報サービス）である。

（倫理面への配慮）

本調査は今金町の全面的な協力により実施された。対象者へは町長名の依頼文書を添付し、回収に関係するや事務的作業も全て町保健福祉センターが中心となり実施された。調査票は無記名形式であり、分析に関しても全て ID 番号化し、研究者が調査票より個人特定できないように配慮した。また調査への協力要請にあたり、対象者に対し、得られたデータを研究目的以外には使用しない旨の説明を文書にて行い、調査票への記入をお願いした。

C.研究結果

1. 回収状況と基本属性

調査票の配布 916 部に対し、回収は 858 部（93.7%）であった。記入漏れのチェックを行った結果、一部未記入部分もあったが、全回収票とも性別、年齢、居住地区の記入漏れがなかったため、これら全てを有効票として分析対象にした。対象者の性別、年齢、居住地区、家族形態などの基本的属性は表 3 に示した通りである。全体のうち女性の割合が多く、年齢の平均±標準偏差は 74.6±6.4 であった。農業を基盤とする地区であり、夫婦のみの核家族世帯の割合が多い。

2. 役割の遂行

実施している役割の内容を性、年齢、移動能力別にみたものが表 4~表 7 である。

職業労働（表 4）の内容をみると、男性の 3 割程度が職業を持っており、女性はその半分程度であった。年齢別では 70 歳前半まで 3 割程度が職業を持っており、80 歳を過ぎるとその割合は急に低下していた。移動能力別では障害がない者の職業労働従事が高いが、

何らかの介助が必要な高齢者でも職業を持つものもいた。

家事労働（表 5）に関しては、男性で「庭・花壇・菜園の管理」、「ごみ捨てやごみ処理」が上位（5割以上）で、女性では「洗濯」、「掃除」、「食事の世話」が上位（9割程度）であった。年齢的にはどの年齢においても「食事のしたく」、「洗濯」、「掃除」、「神棚・仏壇管理」、「庭・花壇・菜園管理」、「ごみ捨てごみ処理」に半数前後の回答があり、85歳を過ぎても「洗濯」、「掃除」、「庭・花壇・菜園管理」、「ごみ捨てごみ処理」等は半数以上が実施できている家事労働であった。移動能力別にみた内容では、移動能力が低くなると、「庭・花壇・菜園管理」、「ごみ捨てごみ処理」など活動性を伴う家事労働の減少が顕著であるが、一方で、何らかの介助が必要な高齢者でも「食事の支度」、「洗濯」、「掃除」、「留守番・電話番」は半数以上が実施できている家事労働であった。

学習・趣味活動（表 6）では、男性が「パークゴルフ」、女性が「押し花・ちぎり絵・パッチワーク・手芸」が多い。年齢的には高齢になるにつれて、「パークゴルフ」や「釣・山歩き・山菜取り」などの活動性を伴う内容が減少している一方、「ゲートボール」、「温泉めぐり」、「押し花・ちぎりえ・パッチワーク・手芸」などは 85歳を過ぎても回答がみられた。移動能力別でも、何らかの介助が必要な者でも「カラオケ」、「押し花・ちぎり絵・パッチワーク・手芸」などの回答があった。

ボランティア活動（表 7）では、男性が「農作業」、女性は「地域の美化・環境整備」が多い。また「地域の美化・環境整備」は年齢が比較的高齢でも、移動能力が低くても実施可能な活動であった。

団体組織活動（表 8）では、最も多いのが「宗教関連・檀家」であり、次に「老人会・高齢者関連団体」であった。男女別では男性の 1 位が「宗教関連・檀家」で、女性の 1 位は「老人会・高齢者関連団体」であった。年

齢的には、加齢に伴う組織団体での活動数の低下が見られるものの、80歳まではさほど顕著ではない。また「老人会・高齢者関連団体」での活動は、70歳以降では 4割以上が回答しており、70歳未満では 18%と低い。また、いずれの活動も移動能力が低下すると減少する傾向にあった。

リーダーシップ（表 9）では、最も多いのが「老人会・高齢者関連団体」で、次いで「町内会・自治会」であった。男女別では男性が「町内会・自治会」、女性が「老人会・高齢者関連団体」が 1 位である。加齢に伴うリーダーシップの減少は差ほど見られないが、85歳を過ぎるとそれは顕著になる。また、移動能力が低下するとリーダーシップの数は減少し、何らかの介護の必要な者のリーダーシップはまったくなかった。

また、役割実施数の平均値及び標準偏差、最小値、最大値を表 10 に示した。これらに関して性、年齢、移動能力別にみたものが表 11～表 13 である。性別にみた場合、男性が有意に高い役割項目は、職業労働やボランティア活動、地域の団体・組織活動であり、女性が有意に高い項目は家事労働であった。また年齢別にみた場合、全体的に年齢が高くなるに伴い、役割遂行の平均値が低くなる傾向にあったが、それは職業労働や家事労働、ボランティア活動、団体・組織活動において有意であった。また移動能力別では、全ての役割項目において、移動能力が低下すると役割遂行の平均値が有意に低くなることがわかった。

3. 役割と健康関連指標との関連

健康関連指標の平均値および標準偏差を表 14 に示す。なお移動能力や入院経験に関しては表下注のように得点化した。

役割実施数と健康関連指標に関して性別と年齢をコントロールとした相関分析（偏相関）の結果を表 15 に示した。各役割項目と通院

数、入院経験を除く各健康関連指標との間で高い相関が認められた。とくに動作に対する自己効力感や活動能力、精神的健康度に関しては全ての役割との間で高い相関が認められた。

次に、各健康関連指標の得点が役割によって規定される程度を明らかにするために重回帰分析を行なった。役割項目と高い相関がみられた健康関連指標のうち、自己効力感、活動能力、QOL、精神的健康をそれぞれ従属変数とし、職業労働、家事労働、学習・趣味活動、ボランティア活動、団体・組織活動を説明変数とする重回帰分析を実施し、その結果を表 16～表 19 に示した。

自己効力感では、モデル全体の決定係数 (R^2) は 0.113 ($P < 0.01$) であり、職業労働、家事労働、学習・趣味活動、地域の団体・組織活動の寄与が有意であった。活動能力では、モデル全体の決定係数 (R^2) が 0.134 ($P < 0.01$) であり、職業労働、家事労働、学習・趣味活動、地域の団体・組織活動における寄与が有意な傾向を示した。QOLではモデル全体の決定係数 (R^2) が 0.084 ($P < 0.01$) であり、職業労働、学習・趣味活動、ボランティア活動、地域団体・組織活動の寄与が有意であった。精神的健康度では、モデル全体の決定係数 (R^2) が 0.079 ($P < 0.01$) であり、職業労働、学習・趣味活動、地域の団体・組織活動、リーダーシップの寄与が有意な傾向をした。

4. 高齢者の希望する役割

今後、本研究が対象地域の中で具体的な設定が可能と考えられる役割、および家族や地域の関係者のエンパワーメントにより役割創造が可能な項目と考えられる役割である、職業労働、家事労働、学習・趣味活動、ボランティア活動に関して、性、年齢、移動能力別に希望する内容を示したものが表 20～表 23 である。

職業労働 (表 20) では回答数が少なく全体的傾向を示すことはできなかったが、「農業・農作業・畜産関係」の希望が若干多く、それらは男性で 70 歳未満、移動能力が高い人に多いようである。

家事労働 (表 21) では「食事の支度」や「掃除」など家庭内の家事を中心に「庭・花壇・菜園の管理」などを希望するものが多い。また 80 歳を過ぎても、これらに関する回答が見られた。

学習・趣味活動 (表 22) は圧倒的に「パークゴルフ」や「その他のスポーツ」の希望が多いが、これは男性、75 歳未満、障害のないものを中心としている。また「園芸・花壇づくり」は高齢で障害がある程度あっても希望する学習・趣味活動であった。

ボランティア活動 (表 23) では「地域の美化・環境整備」や「介護等、高齢者福祉」が多い。いずれも年齢が低く、移動能力の高い者に希望が多いが、80 歳以上にも若干希望者がいた。

D. 考察

男性では、職業労働や地域の団体・組織活動、ボランティア活動が多く、女性は家事労働が多かった。高齢者における傾向として男性が職業に多く就き、女性は家事労働が多いのは一般的な結果であるが、団体・組織活動やボランティア活動まで男性が有意に高かったのは、農業を中心産業とするこの地域の特徴から起因することが予測できる。また役割項目全般で加齢や移動能力の低下に伴い実施している役割の平均値が減少する傾向にあった。加齢や移動能力の減少は直接本人の健康度の低下の原因として考えられるが、そこには役割の減少などの要因が複雑に影響していることが理解できる。

一方、役割と健康関連指標との関連では、これまでの研究と同じように、役割の遂行と健康度との間に関連が見られることがわかつ

た。職業労働、家事労働、学習・趣味活動および地域の団体・組織活動は、動作に対する自己効力感や、活動能力に共通して寄与しており、職業労働、学習・趣味活動、地域の団体・組織活動は、QOLや精神的健康度に寄与していた。これら結果より、高齢者の健康づくりのためには、単に趣味やスポーツ等の機会やボランティア活動を設定するだけでなく、高齢者の特性に見合った職業労働や家庭内の家事役割を創造していくことが重要である。

本研究では、今後この地域において希望される役割内容に鑑みながら、具体的な役割の設定を実施するが、職業労働では「農作業」、家事労働では「食事のしたく」、「洗濯」、「掃除」、「庭・花壇・菜園管理」、学習・趣味活動では「パークゴルフ」、ボランティア活動では「地域の美化・環境整備」「介護等、高齢者福祉」を中心に設定することが必要である。特に今回の結果から、職業労働が多く健康に寄与していることを考えると、農作業や花壇作り・手入れ、菜園管理、公園整備等に対して多少の報酬を出し、職業労働化するような工夫も必要であると考えられる。

E. 結論

北海道今金町の要介護認定者および施設入所者を除く高齢者を対象として、日常の役割内容を明らかにし、役割と健康度（健康関連指標）との関連性を検討した。

実施している役割で最も多かったのは、家事労働であり、「食事の支度」「洗濯」「掃除」「神棚や仏壇の管理」「庭・花壇・菜園の管理」「ごみ捨てやごみ処理」は半数以上が実施していた。また、家事労働としての「食事の支度」「洗濯」「掃除」「留守番・電話番」及びボランティア活動としての「公園整備・花壇の手入れ」は、高齢でも、移動能力が低くても実施可能な役割であった。

役割項目と関連が深い健康関連指標として

自己効力感、活動能力、QOL、精神的健康度が明らかになった。とくに、役割としての職業労働、学習・趣味活動および地域の団体・組織活動は、本研究で取り上げたいずれの健康関連指標とも有意に関連していた。

一方、高齢者が希望する役割として、職業労働では「農作業」、家事労働では「食事のしたく」、学習・趣味活動では「パークゴルフ」、ボランティア活動では「地域の美化・環境整備」が第1位であった。次年度これらを勘案した役割メニューの設定が必要である。

F. 健康危機情報

特になし

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

文献

- 1) Berkman, L.F. & Breslow, L (森本兼曩監訳) : 生活習慣と健康. HB J 出版局, 1989. pp. 99-137.
- 2) 芳賀博 : 転倒に対する意識・態度の尺度化の試み、地域高齢者における転倒骨折に関する総合的研究 (平成7年度～平成8年度科学研究費補助金「基礎研究A(1)」研究成果報告書、124-136、1997
- 3) 古谷野亘・他 : 地域老人における活動能力の測定—老研式活動能力指標の開発. 日本公衆衛生雑誌, 34 (3)、109-114、1987
- 4) 大田壽城、芳賀博、長田久雄、田中喜代次、前田清・他、地域高齢者のためのQOL質問表の開発と評価、日本公衆衛生雑誌、48 (4)、258-267、2001
- 5) Niino, N., Imaizumi, T. & Kawakami, N. : A Japanese translation of the Geriatric Depression Scale. Clinical

研究協力者

齊藤恭平 (函館短期大学食物栄養学科)

伊藤弓月 (東北文化学園大学医療福祉学部)

表1 高齢者の役割項目と内容

地位	役割	調査内容と指標化
職業労働者	職業労働	現在の常勤・アルバイト・パートタイムを含むの職業労働の有無(「ある」を1点、「ない」を0点とし指標化した)
家族員	家事労働	現在の家庭内における家事労働の内容とその担当数
学習者	学習・趣味活動	現在の学習・趣味・スポーツ活動の実施内容と実施数
奉仕者	ボランティア活動	過去1年間における奉仕活動(ボランティア)の内容と経験
地域住民	地域の団体・組織活動	民生委員、老人会、保健推進員、文化団体、スポーツ団体、退職者団体、遺族会など地域の公的・準公的団体への参加・加入数(ただし町内会などの加入義務傾向の強いもの)
リーダー	リーダーシップ	社会参加にあげた団体に加え町内会、商工会、農協などを含めた団体における役員・役職の就任数

表2 健康関連指標の内容

健康関連指標	調査に用いた指標・尺度
ADL自己効力感	日常生活動作に関する自己効力感指標 ²⁾
活動能力	老研式活動能力指標 ³⁾
QOL	地域高齢者のためのQOL質問表 ⁴⁾
精神的健康度	GDS(Geriatric Depression Scale)日本語版 ⁵⁾
入院数	過去1年間の入院経験の有無
通院数	過去一カ月間の通院日数

表3 対象者の性別・年齢・居住地区・家族形態

表中数値:人(%)

性別	年齢構成		居住地区		家族形態	
男	388(45.2)	65-69 205(23.9)	市街地	309(36.0)	独居	72(8.4)
女	470(54.8)	70-74 261(30.4)	農村地区	459(64.0)	核家族(夫婦のみ)	362(42.4)
		75-79 208(24.2)			核家族(子どもと同居)	160(18.6)
		80-84 117(13.6)			三世代家族	150(17.5)
		85以上 67(7.7)			その他	50(5.8)
					不明・未回答	64(7.5)

表4 職業労働の実施状況

	合計	上段:実数 下段:%		無回答 不明
		もって いる	もって いない	
(性別)				
男	388	115	271	2
	100.0	29.6	69.8	0.5
女	470	76	388	6
	100.0	16.2	82.6	1.3
(年齢)				
65～歳	205	65	140	-
	100.0	31.7	68.3	-
70～歳	261	76	181	4
	100.0	29.1	69.3	1.5
75～歳	208	37	170	1
	100.0	17.8	81.7	0.5
80～歳	117	11	103	3
	100.0	9.4	88.0	2.6
85～歳	67	2	65	-
	100.0	3.0	97.0	-
(移動能力)				
障害なく何でも出来る	536	150	381	5
	100.0	28.0	71.1	0.9
障害あるがほぼ出来る	279	35	242	2
	100.0	12.5	86.7	0.7
何らかの介助必要	27	2	25	-
	100.0	7.4	92.6	-
不明	16	4	11	1
	100.0	25.0	68.8	6.3
合計	858	191	659	8
	100.0	22.3	76.8	0.9

表5 家事労働の実施状況(複数回答)

	上段:実数 下段:%																		
	合計	食事の 支度	洗濯	掃除	家計や 財産の 管理	孫の 話や 教育	世帯 の保 護	親や 配偶 者の 介護	記 録や 家畜 の世 話	ペット や 畜 産の 管理	神棚 や 仏壇 の 管理	庭・花 壇・菜 園の 管理	ごみ捨 てや ごみ 処理	留守番 や電 話番	近所付 き合 い	大工 仕事 や家 の修 繕	漬物・ 乾物・ 味噌 作り など	家業 の手 伝い	その他
(性別)																			
男	388	77	97	118	118	27	14	64	151	215	211	127	164	147	35	114	10		
	100.0	19.8	25.0	30.4	30.4	7.0	3.6	16.5	38.9	55.4	54.4	32.7	42.3	37.9	9.0	29.4	2.6		
女	470	403	427	422	176	36	21	69	318	350	326	267	291	14	275	123	7		
	100.0	85.7	90.9	89.8	37.4	7.7	4.5	14.7	67.7	74.5	69.4	56.8	61.9	3.0	58.5	26.2	1.5		
(年齢)																			
65～歳	205	122	124	136	82	24	12	39	109	133	141	89	122	40	77	54	5		
	100.0	59.5	60.5	66.3	40.0	11.7	5.9	19.0	53.2	64.9	68.8	43.4	59.5	19.5	37.6	26.3	2.4		
70～歳	261	144	151	155	97	26	13	52	131	177	164	109	141	54	99	85	2		
	100.0	55.2	57.9	59.4	37.2	10.0	5.0	19.9	50.2	67.8	62.8	41.8	54.0	20.7	37.9	32.6	0.8		
75～歳	208	118	129	133	53	9	4	25	121	139	125	104	103	36	83	63	4		
	100.0	56.7	62.0	63.9	25.5	4.3	1.9	12.0	58.2	66.8	60.1	50.0	49.5	17.3	39.9	30.3	1.9		
80～歳	117	66	82	81	43	4	3	10	78	80	70	64	62	18	35	29	3		
	100.0	56.4	70.1	69.2	36.8	3.4	2.6	8.5	65.0	68.4	59.8	54.7	53.0	15.4	29.9	24.8	2.6		
85～歳	67	30	38	35	19	-	3	7	32	36	37	28	27	13	16	6	3		
	100.0	44.8	56.7	52.2	28.4	-	4.5	10.4	47.8	53.7	55.2	41.8	40.3	19.4	23.9	9.0	4.5		
(移動能力)																			
障害なく何でも出来る	536	296	322	335	198	53	27	96	300	369	358	245	304	118	212	167	10		
	100.0	55.2	60.1	62.5	36.6	9.9	5.0	17.9	56.0	68.8	66.8	45.7	56.7	22.0	39.6	31.2	1.9		
障害があるがほぼ出来る	279	160	178	182	90	9	7	35	149	182	164	130	137	39	91	65	5		
	100.0	57.3	63.8	65.2	32.3	3.2	2.5	12.5	53.4	65.2	58.8	46.6	49.1	14.0	32.6	23.3	1.8		
何らかの介助必要	27	14	15	14	5	1	-	2	13	6	6	15	10	3	3	3	2		
	100.0	51.9	55.6	51.9	18.5	3.7	-	7.4	48.1	22.2	22.2	55.6	37.0	11.1	11.1	11.1	7.4		
不明	16	10	9	9	3	-	1	-	7	8	9	4	4	1	4	2	-		
	100.0	62.5	56.3	56.3	18.8	-	6.3	-	43.8	50.0	56.3	25.0	25.0	6.3	25.0	12.5	-		
合計	858	480	524	540	294	63	35	133	469	565	537	394	455	161	310	237	17		
	100.0	55.9	61.1	62.9	34.3	7.3	4.1	15.5	54.7	65.9	62.6	45.9	53.0	18.8	36.1	27.6	2.0		

表6 学習・趣味活動の内容(複数回答)

	上段:実数 下段:%																
	合計	カラオ ケ	茶道・ 生け花	ゲート ボール	その他 のスポ ーツ	ダンス 関連	パーク ゴルフ	音楽関 係 (コー ラ・楽 器演奏)	温泉 めぐり 旅行	押し 花・ち ぎり ハッチ ワキ ク・手	園芸・ 花壇づ くり・植 木	畑・菜 園	釣り・ 山歩 き・山 菜取 り・狩 猟	そばう ち・漬 物づく り	ウォー キング ・散 歩	マー ジャン ・囲碁 ・将棋	その他
(性別)																	
男	388	13	-	9	15	7	42	5	38	3	5	3	32	2	3	6	16
	100.0	3.4	-	2.3	3.9	1.8	10.8	1.3	9.8	0.8	1.3	0.8	8.2	0.5	0.8	1.5	4.1
女	470	15	13	17	-	14	29	11	29	46	16	7	1	4	2	1	14
	100.0	3.2	2.8	3.6	-	3.0	6.2	2.3	6.2	9.8	3.4	1.5	0.2	0.9	0.4	0.2	3.0
(年齢)																	
65～歳	205	8	1	5	10	13	22	2	12	8	4	3	13	1	2	-	10
	100.0	3.9	0.5	2.4	4.9	6.3	10.7	1.0	5.9	3.9	2.0	1.5	6.3	0.5	1.0	-	4.9
70～歳	261	5	8	7	1	4	28	4	20	17	7	1	9	2	1	4	11
	100.0	1.9	3.1	2.7	0.4	1.5	10.7	1.5	7.7	6.5	2.7	0.4	3.4	0.8	0.4	1.5	4.2
75～歳	208	8	1	5	2	3	15	3	20	13	7	3	8	1	2	1	6
	100.0	3.8	0.5	2.4	1.0	1.4	7.2	1.4	9.6	6.3	3.4	1.4	3.8	0.5	1.0	0.5	2.9
80～歳	117	5	2	3	1	-	5	4	10	7	1	2	2	1	-	2	1
	100.0	4.3	1.7	2.6	0.9	-	4.3	3.4	8.5	6.0	0.9	1.7	1.7	0.9	-	1.7	0.9
85～	67	2	1	6	1	1	1	3	5	4	2	1	1	1	-	-	2
	100.0	3.0	1.5	9.0	1.5	1.5	1.5	4.5	7.5	6.0	3.0	1.5	1.5	1.5	-	-	3.0
(移動能力)																	
障害なく何でも出来る	536	14	6	18	11	18	51	10	49	31	14	5	27	4	4	6	22
	100.0	2.6	1.1	3.4	2.1	3.4	9.5	1.9	9.1	5.8	2.6	0.9	5.0	0.7	0.7	1.1	4.1
障害があるがほぼ出来る	279	11	6	8	4	3	19	6	17	15	7	5	6	2	1	1	7
	100.0	3.9	2.2	2.9	1.4	1.1	6.8	2.2	6.1	5.4	2.5	1.8	2.2	0.7	0.4	0.4	2.5
何らかの介助必要	27	2	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1
	100.0	7.4	-	-	-	-	3.7	-	-	7.4	-	-	-	-	-	-	3.7
不明	16	1	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
	100.0	6.3	6.3	-	-	-	-	-	6.3	6.3	-	-	-	-	-	-	-
合計	858	28	13	26	15	21	71	16	67	49	21	10	33	6	5	7	30
	100.0	3.3	1.5	3.0	1.7	2.4	8.3	1.9	7.8	5.7	2.4	1.2	3.8	0.7	0.6	0.8	3.5